

## 機械設備工事特記仕様書

## 1 特記仕様の適用方法

- 1) 項目は番号の前に○印のついたものを適用する。  
 2) 特記事項は◎印のついたものを適用する。・印は適用しない。  
 ◎印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。  
 ◎印と※印のついた場合は共に適用する。

項目	特記事項
○ 1	<p>試験成績書</p> <p>1) 試験成績書の構成</p> <p>a) 機器性能試験表 【※要 ・不要】</p> <p>b) 総合調整試験成績表 【※要 ◎不要】</p> <p>c) 配管耐圧試験成績表 【※要 ・不要】</p> <p>d) 排水管通水試験成績表 【※要 ・不要】</p> <p>e) 風量測定表 【※要 ・不要】</p> <p>f) 絶縁抵抗測定表 【※要 ・不要】</p> <p>g) 飲料水の水質測定（残留塩素） 【※要 ・不要】</p>
○ 2	<p>総合調整</p> <p>1) 風量調整 【※要 ・不要】</p> <p>2) 水量調整 【※要 ◎不要】</p> <p>3) 室内外空気の温湿度の測定 【※要 ◎不要】</p> <p>4) 室内気流及びじんあいの測定 【※要 ◎不要】</p> <p>5) 騒音の測定 【※要 ◎不要】</p> <p>6) 飲料水の水質の測定 【※要 ◎不要】</p> <p>7) 初期運転状態の記録 【※要 ・不要】</p>
○ 3	<p>管及び継手</p> <p>1) 給水管（上水系統）及び雑用水管（便所洗浄水・散水系統）</p> <p>a) 配管材料</p> <p>給水管</p> <p>・一般配管用 塩ビライニング鋼管 (SGP-VB)</p> <p>・土間配管用 塩ビライニング鋼管 (SGP-VD)</p> <p>・屋外土中埋設用 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (HIVP)</p> <p>雑用水管</p> <p>・一般配管用 ポリ紛体鋼管 (SGP-PB)</p> <p>・土間配管用 ポリ紛体鋼管鋼管 (SGP-PD)</p> <p>・屋外土中埋設用 水道用ポリエチレン二層管 (PP)</p> <p>b) バルブソケットは給水用金属インサートネジ付とする。</p> <p>c) 埋設配管にはバルブソケットを用いず、エラスジョイント等を使用する。</p> <p>d) 特記なき給水管の最小口径は20Aとする。</p> <p>2) 給湯管</p> <p>a) 配管材料</p> <p>・一般配管用 耐熱塩ビライニング鋼管 (SGP-HVA)</p> <p>3) 消火管</p> <p>a) 配管材料</p> <p>・一般配管用 配管用炭素鋼鋼管 (SGP-白)</p> <p>圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG-白)</p> <p>・土間配管用 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS)</p> <p>消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG-VS)</p> <p>・屋外土中埋設用 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS)</p> <p>消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG-VS)</p> <p>4) ガス管</p> <p>・一般配管用 配管用炭素鋼鋼管 (SGP-白)</p> <p>合成樹脂被覆鋼管 (PLV)</p> <p>・土間配管用 合成樹脂被覆鋼管 (PLP)</p> <p>・屋外土中埋設用 ポリエチレン管 (PE)</p> <p>合成樹脂被覆鋼管 (PLP)</p>

- 5) 排水管・通気管・ドレン管
  - ・一般配管用 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)
  - ・土間配管用 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)
  - ・屋外土中埋設用 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)
  - 硬質ポリ塩化ビニル管 (VU)
  - a) 露出配管にはカラービニル管の採用を検討する。
  - b) バルブソケットは給水用金属インサートネジ付とする。
  - c) 流しトラップはVP管接続とする。
  - d) 屋外土中埋設部で土被り600H以上の部分はVU管とする。(第一桝接続まではVP管とする)
- 6) 冷媒管
  - ・一般配管用 断熱材被覆銅管
  - a) 断熱材被覆銅管の断熱厚さは、ガス管20mm以上、液管10mm以上とする。ただし呼び径9.52mm以下の液管は8mmとする。
- 4 弁及び栓
  - 1) 弁類
    - 水道直結、屋外露出（排水用を除く）、ポンプ廻りはJIS10Kとする。
- 5 スリーブ
  - 1) 標仕によるほか、構造に支障ない部分は監督職員の承諾により、標仕に定める以外に呼び径200mm以下の紙製型枠を使用できる。ただし、外壁の地中部分等水密を要する部分と地中部分で水密を要しない部分は標仕のとおりとする。
- 6 雑材料
  - 1) 吊り金物、支持金物及び固定金物
    - a) 屋外、ピット内及び多湿箇所はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上とする。
    - b) 土間配管はステンレス製とする。
    - c) 冷媒用被服銅管の吊り金物は専用金物とする。
  - 2) インサート金物
    - a) 屋外、ピット内及び多湿箇所はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上とする。
    - b) 躯体に残る釘は樹脂製またはステンレス製とする。
  - 3) 露出フランジのボルト及びナット
    - a) 屋外、ピット内及び多湿箇所はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上とする。
- 7 配管施工の一般事項
  - 1) 建築物導入部の配管の変位吸収は標準図の施工4,5とし、図示のない場合は標準図施工5(c)とする。
  - 2) 配管に漏水を認めた場合は、速やかに取替え修理を行うこととし、樹脂管のコーキング修理を行ってはならない。
  - 3) 梁などの貫通部に接合部を設けない。
  - 4) 配管をコンクリート内に打込まない。埋込む必要のある場合は、コンクリート打設後に配管しモルタル等で埋める。
  - 5) 配管及び弁類には、必要に応じて系統、流体種別、常開及び常閉等の表示を行う。
- 8 溶接接合
  - 1) 非破壊検査の適用【・要 ※不要】
    - a) 適用箇所【      】
    - b) 非破壊検査の方法【・放射線透過検査 ※浸透探査検査 ・磁粉探傷検査】
    - c) 放射線透過検査の判定基準【      】
- 9 勾配、吊り及び支持
  - 1) 土間配管は吊り金具を取り付け、土間コンクリート配筋に結束する。
  - 2) 機器や形鋼を天井から吊る場合は下側をダブルナットにする。
- 10 埋設配管
  - 1) 屋外埋設配管は車道部は土被り600mm以上、その他は300mm以上とする。  
(ポンプ圧送以外の排水管は除く)
  - 2) 屋外埋設配管周囲は管下100mm、管上100mm以上の山砂の類で埋め戻す。
  - 3) 屋内土間埋設配管は管及びその被覆樹脂を傷めないよう周囲を山砂の類で埋め戻した後、良質掘削土で埋め戻す。
- 11 防食処理
  - 1) コンクリート埋設される外面樹脂被覆されていない鋼管はプラスチックテープを1/2重ね2回巻きする。
- 12 貫通部の処理
  - 1) 標仕によるもの以外の配管貫通部の隙間は原則としてモルタルを充填する。
  - 2) 冷媒用被服銅管の貫通部の隙間は難燃性パテを充填する。

- 13 試験
  - 1) 排水及び通気管の満水試験【・要 ※不要】
- 14 はつり及び穴あけ
  - 1) 改修工事でない場合ははつり及び穴あけは、原則として行わない。
- 15 あと施工アンカー
  - 1) 改修工事でない場合はあと施工アンカーは、原則として使用しない。ただし、機器の据付に用いる接着系アンカーは、強度を確認の上使用してよい。
  - 2) 機器の据付にメカニカルアンカーは使用しない。
  - 3) めねじ形メカニカルアンカーについては、標準図の施工19のおねじ形メカニカルアンカーの許容引抜荷重と同等の強度を有するものに限り使用してよい。
  - 4) 性能確認試験【※製造者の試験成績表による】
  - 5) 施工後確認試験【・要 ※不要】
- 16 基礎工事
  - 1) コンクリート基礎端部は面取りをする。
  - 2) 屋外設置機器と多湿場所に設置する機器の基礎アンカーボルトとナット等はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上とする。
  - 3) 基礎ボルトの状態が確認できるようキャップは取り付けない。
- 17 空気調和設備工事の保温
  - 1) 暖房を行う部屋、厨房及び浴室とその天井内の外気取入ダクトと外壁から2mの排気ダクトは保温を行う。
  - 2) 空調用ドレン管は温水管の仕様で保温をする。ただし、屋外露出と床下暗渠は保温を行わない。
- 18 給排水衛生設備工事の保温
  - 1) 排水管及び通気管は保温を行わない。
  - 2) 消火の水配管は屋外露出配管のみ保温を行う。仕様は給水管を適用する。
  - 3) 給水管で、機械室内、暗渠内及びPS内配管（暖房の影響を受けない箇所に限る）の弁、フランジ、フレキシブルジョイント等は保温を行わない。
  - 4) 屋外の保温外装に使用する鋼板はステンレス鋼板とする。
- 19 パッケージ型空気調和機
  - 1) 室内、室外ユニットともにアース線をとる。
  - 2) 高さが1m以上の室外機は転倒防止策をとる。
- 20 ダクト及びダクト付属品
  - 1) 長方形ダクト
    - a) 材料【※亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板】
    - b) 工法【・ アングルフランジ工法 ※コーナーボルト工法】
    - c) 板厚表示が外から確認できるように制作し、写真を撮ること。
  - 2) スパイラルダクト【※亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板】
  - 3) フレキシブルダクト（機器接続部に最小限かつ1m以内で用いる）  
【※アルミ（二重構造）製 ・ 亜鉛めっき鋼板製 ・ ステンレス製】
  - 4) ダンパーの軸受はベアリングとする。
- 21 インバート柵
  - 1) プラスチック柵(小口径柵)
    - a) 柵の出口をVP管で接続する場合はVU-VPソケットを用いる。
    - b) 立ち上がり管はVU管とする。
  - 2) プラスチック柵（小口径柵）用ふた
    - a) プラスチック・マスマンホール協会規格適合品または、日本下水道協会規格適合品を標準とする。
    - b) 呼び径200はAIライト、呼び径300はAI-Rライトとする。
  - 3) プラスチック柵（小口径柵）用防護ハット
    - a) プラスチック・マスマンホール協会規格適合品または、日本下水道協会規格適合品を標準とする。
    - b) 密閉式内ブタ(CV-R)を取り付ける。
    - c) 防護ハットは標準型、蝶番袋穴式とする。
- 22 ため柵
  - 1) コンクリート柵（図示のない場合）
    - a) 車両通路【・ RC型 ※無筋コンクリート角型柵】
    - b) 上記以外【・ RC型 ※無筋コンクリート角型柵】
- 23 衛生器具
  - 1) 乾式仕上の床面は、衛生器具の全周にシーリング材を充填する。
  - 2) 湿式仕上の床面は、ストール小便器の下部に限り白セメントを充填する。

○ 26	予備品 3) 壁面には原則としてシーリング材を使用しない。 4) シーリング材には防かび性を有するものを使用する。 5) 化粧鏡の裏面にはバックアップ材を貼付ける。 1) 空調機器の各種フィルター予備品は100%納入とする。
------	--